

「高大接続改革推進事業」

平成28年度予算額(案)15億円(平成27年度予算額12億円)

高等学校や社会との円滑な接続の下、3つのポリシー（「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」）に基づき、入口から出口まで質保証の伴った大学教育を実現するため、各継続テーマにおける取組の強化を図るほか、新規テーマとして、学生が卒業段階でどれだけの力を身に付けたのかを客観的に評価する仕組みやその成果をより目に見える形で社会に提示するための効果的な手法等を開発し、先導的なモデルとなる取組を支援する。

平成28年度新規メニュー：テーマV 卒業時における質保証の取組の強化

●学修成果の質保証の仕組みの強化

○ 客観的な評価の基準作り
(例)

- ・ アセスメント・テストの開発
- ・ 学位プログラム内で共有できるルーブリックの開発 など

○ 卒業時の学修成果の客観的提示方法の開発
(例)

- ・ 卒業生の学修成果をより詳細に社会に提示するための書類（ディプロマ・サプリメント）の開発 など

●社会とのコミュニケーションの強化による教育の改善と質保証

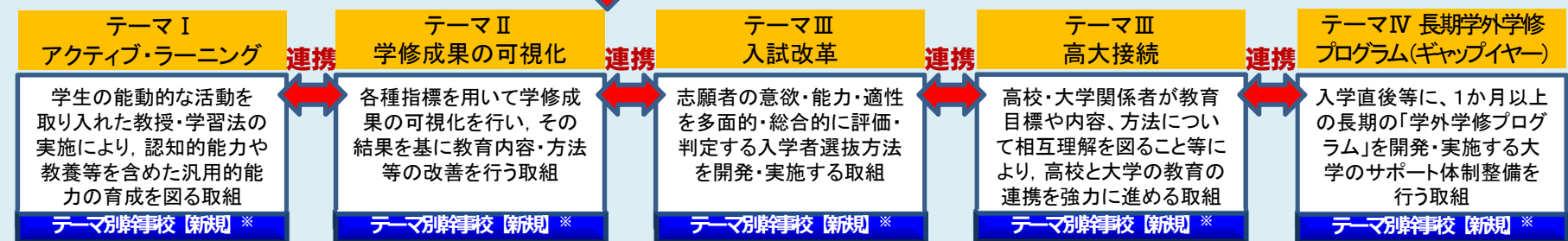
○ 学外の多様な人材との協働による助言・評価の仕組み作り
(必須) 高校や産業界等外部関係者を含めた助言評価委員会を設置

卒業生の質保証に責任を持つ大学教育へと
抜本的に転換

- 企業の採用時に大学教育の成果の評価をより重視する方向へ改善
- 社会における大学教育観の転換

連携

テーマ別幹事校



継続支援テーマ ⇒ 取組を強化

※既採択校の中からテーマごとに幹事校を設定(必要経費を補助)し、情報発信の中核に。

文部科学省(有識者会議)

- 有識者会議を設置し、取組の進捗管理及び評価・分析
- 有識者会議の議論を経て、課題解決策の取りまとめ・普及

成果の発信

- テーマ別幹事校を中心に、全国の大学等に成果を発信・普及 ⇒ 高校や社会との円滑な接続の下、入口から出口まで一貫した質保証の伴った大学教育の実現